

目次

口 絵

発刊のことば

本誌を読まれる人のために

川内町長 森 房 義

第一編 自然

第一章 位置・面積・人口…………… 3

第一節 位 置…………… 3

    数理的位置 交通的位置 都市機能的位 置

第二節 面 積…………… 6

    地域別面積 土地利用別面積

第三節 人 口…………… 12

概観 人口動態 男女・年齢別人口構成 産業別人口構成 世帯の動態

第二章 地質……………28

第一節 日本列島の地質区分と愛媛県の地質概要……………28

中央構造線 本県最古の岩石―黒瀬川構造帯 領家帯 三波川帯 秩父帯 四万十帯

第二節 川内町の地質……………37

領家帯―和泉層群 三波川帯―三波川変成岩類 石鎚第三系 第四紀堆積物 川内町付近の中央構造線 川内町付近の地史のまとめ

第三章 気象・災害……………49

第一節 気温……………49

第二節 降水量……………53

第三節 日照・湿度……………53

第四節 風……………54

第五節 雑象……………55

第六節 季節暦……………56

春 梅雨 夏 秋の長雨(秋に霖)・台風 秋冬

第七節 自然災害……………59

第四章 生物……………68

第一節 植物……………68

松瀬川方面 黒森峠方面 桜三里方面 井内峠方面 南方方面 北方方面 町内植物概観

天然記念物並びに老木 有用植物 帰化植物

第二節 動物……………99

鳥獣など 昆虫

第二編 歴史

第一章 原 始……………109

第一節 日本列島の誕生……………109

第二節 縄文時代……………110

第三節 弥生時代……………113

    弥生時代の流れの概要 川内町における集落の形成

第四節 古墳時代の文化……………130

第二章 古代・中世……………147

第一節 律令制社会と久米郡の開発……………147

    久米郡の三か郷 郡司の増員と開発の進展

第二節 鎌倉堂の伝承……………153

    鎌倉堂と北条時頼 久米良郷 野口保 伝承の成立

第三節 南北朝の動乱と古社寺……………166

    安国寺の創建 鹿王院の末寺 大興寺と川上神社

第四節 伊予の守護代戒能氏……………176

    守護と守護代 名越城 大熊城

第五節 大熊城の攻防……………188

大野氏の侵入 小手ヶ滝城と鳥屋ヶ森城 大熊城の廃城

第三章 近世……………203

第一節 目まぐるしい領主の交替……………203

    四国征伐後の久米・浮穴郡 小早川隆景 福島正則 幻の領主栗野秀用 加藤嘉明 蒲生忠知 松平定行

第二節 近世村落の形成……………211

    検地と村切り 村の運営 農民の負担

第三節 新田開発と地坪制度……………241

    新田開発 御旗新田 北方村と菖蒲堰 南方村と入会地の利用 用水池の管理 地坪制度

第四節 村・町のくらし……………283

    幕府・藩の統制 五人組 宗門改 農間余業(農間稼ぎ) 相互扶助 在郷町 油紋り・豪商坂本(鍵屋) 仁兵衛

第五節 交通……………299

    金毘羅街道 伊予を通過した巡見使 藩主の回領

第六節	災害と飢饉	305
	風水害 享保の大飢饉 天明の飢饉 地震 備荒貯蓄	
第七節	神社・仏閣	313
	神社 仏閣	

#### 第四章 近代

第一節	明治維新から郡区町村制まで	320
	維新と松山藩 版籍奉還 廃藩置県 石鉄県の成立 久万山・久米騒動 戸籍法制度と大小 区制 禁令・規則 町村会・大区会・特設県会 郡町村の編成 地租改正 松方デフレと農 民の窮状 郡町村制の実施 区会	

### 第三編 行 財 政

#### 第一章 町村合併と行政

第一節	幻の合併	383
-----	------	-----

第二節	川内村の誕生	389
	三内村、川上村合併促進協議会 三内村、川上村合併促進協議会専門委員会 三内村、川上 村合併促進協議会経過 村名決定 新村建設計画 新村「川内村」の現況	
第三節	川内町の成立	420
第四節	長期総合計画と土地開発公社	426
第五節	川内町の現況	428
第六節	記念行事・表彰	432
	合併一〇周年記念行事 町制施行二〇周年記念式典 町制施行三〇周年記念式典	
<b>第二章 行政機構</b>		
第一節	行政機関・行政組織	436
第二節	町 議 会	442
第三節	各種委員会	445
第四節	表 彰	448

### 第三章 財政

第一節 財政の成長と変遷

税制と財政 旧村の財政

第二節 新生川内町の財政

一般会計年度別決算状況 特別会計年度別決算状況

第三節 現在の川内町財政

### 第四章 社会福祉

第一節 戦前の社会福祉

第二節 戦後の社会福祉

社会福祉協議会 生活保護と民生委員 児童・母子福祉 老人福祉 身体障害者福祉 国民年金 地域改善事業 交通災害共済 町営住宅 民間活動

### 第五章 保健衛生

第一節 旧村の保健衛生

伝染病 医療制度・医療 旧村の国民健康保険 旧村の環境衛生	
第二節 川内町の保健衛生	538
施設の統廃合と拡充 保健衛生実践会 健康センターの活動 川内町の医療機関・施設の概要	
第三節 国民健康保険	564
第四節 環境衛生	568
簡易水道 清掃センター・廃棄物処理 し尿処理	

### 第六章 土木建設

第一節 金毘羅道と一般国道一一号・主要地方道

金毘羅道 一般国道一一号 四国縦貫自動車道 主要地方道・県道

第二節 重信水系砂防工事

第三節 川内町の土木事業とその現況

町制施行後の土木事業の総括 町道・橋梁の整備と現況 農林関係事業

第七章 治安・警備

615

第一節 警察行政の沿革

615

第二節 駐在所・派出所等の変遷

618

第三節 犯罪・交通事故

622

第四節 消防

624

第五節 常備消防

632

第八章 兵 事

641

第一節 徴兵制

641

第二節 在郷軍人会・兵事会・軍人援護会

647

第三節 戦争犠牲者の援護

648

第四節 戦没者名簿

651

第九章 選 挙

673

第一節 選挙制度の変遷

673

第二節 選挙の概要

675

町村議会議員・町村長選挙 県会議員・県知事選挙 衆議院・参議院議員選挙 選挙管理委員会

第一〇章 広 報

689

第一節 広報活動の状況

689

第十一章 官公署・諸施設

691

第十二章 広域行政

695

第一節 松山地区広域市町村圏事業

695

第二節 政令指定と常備消防

696

第三節 松山伝染病院・火葬場及びし尿処理

697

## 第四編 産業経済

### 第一章 農業

第一節 明治期の農業……………701

変革期 久万山・久米騒動 地租改正 殖産勸農

第二節 大正期から昭和戦前までの農業……………718

米騒動 小作争議 自作農創設維持制度 農業団体 戦時体制下の農業

第三節 戦後の農業……………762

農地改革 農業経営の近代化

第四節 農業経営の推移……………807

農業人口の推移 土地利用の推移 農業所得の推移 米の生産調整

第五節 主要農産物……………826

主な農産物の収穫面積の推移 主な農産物の生産額の推移 主な農産物

第六節 農業用水……………838

川内町の水利 溜池 井堰・泉 葛蒲堰の水争い 三島下井手堰の分水協定 道前道後平野  
土地改良事業 水利組合 土地改良区

### 第二章 林業……………860

第一節 林業……………860

林業の概要 林野面積と土地利用 林家戸数と所有規模 林産物生産状況 特用林産物

第二節 民有林……………867

民有林の概要 造林

第三節 町有林……………871

町有林管理区分 町有林払い下げ

第四節 林業の現況……………873

林道 林業構造改善事業 松くい虫防除 川内町森林組合 愛媛県林業試験場

### 第三章 商工業……………887

第一節 戦前の商工業……………	887
明治期 大正・昭和期 川上水力発電所	
第二節 戦後の商工業……………	902
戦後の商業 商業の現況 戦後の工業 工場誘致	
第三節 金 融……………	918
質屋 頼母子 銀行 郵便局 農業協同組合 商工会	
第四章 交通・通信……………	930
第一節 交通の移り変わり……………	930
明治以前の交通 明治期の交通 大正期の交通 昭和期の交通	
第二節 道路の変遷……………	942
古代の道 讃岐街道(金毘羅街道) 国道一―号線の改修 道路の高速時代	
第三節 交通安全……………	951
交通安全への対応 交通安全宣言の町 交通安全協会	
第四節 通 信……………	959

郵便 電信・電話・報道

第五章 観 光……………	976
--------------	-----

第一節 皿ヶ嶺連峰県立自然公園……………	976
塩ヶ森 滑川溪谷 白猪之滝 唐岬之滝 峠の道	
第二節 その他の観光地……………	985
金毘羅寺周辺 国道一―号線沿線の名所旧跡	

## 第五編 教 育

第一章 教育の概要……………	997
----------------	-----

次	
第一節 寺子屋教育……………	997
寺子屋の歴史 寺子屋での学習 寺子屋の経営費 川内の寺子屋	
第二節 近代教育の創始……………	1001



学制の制定 学校設立資金 明治八年時の小学校 就学状況 小学校規則・生徒心得 教育令 愛媛県小学校教則・小学校校則

第三節 初等教育の整備……………1008

小学校令 施設・設備 教員免許規則

第四節 小学校制度の確立……………1010

小学校令の改正 学級編成と教員配置 尋常小学校の位置 教育勅語と御真影 奉安殿の建設 川上高等小学校・三内高等小学校の設立

第五節 義務教育制度の確立……………1018

再び小学校令改正 日露戦争下の教育

第六節 日露戦争後の教育……………1023

六年制義務教育 教育費の削減 学校林の設置と管理

第七節 学校行事……………1030

運動会 遠足・修学旅行 学芸会 衛生講話会・学校保健

第八節 大正時代の教育……………1035

市町村義務教育費国庫負担法 「国民精神作興ニ関スル詔書」の発布・勤儉強調週間 教育の拡充

第九節 昭和初期の教育……………1039

経済不況と教育財政 戦時下の教育 学童の勤労奉仕・物資欠乏 学童疎開 本土空襲 食糧難・児童体位の低下 川内町の給食の歴史

第一〇節 戦後の教育……………1052

戦時教育の一掃 新憲法の公布・教育基本法施行 新学制の実施―新制中学校の開校 新しい教育の発足 教育委員会の発足 新教育委員会制度 勤務評定 東温教育研究会の結成 体育・保健・学校給食

第一一節 同和教育……………1064

明治・大正期における運動 戦前における解放運動 戦後における解放運動

第二章 学校教育……………1069

第一節 学校創成期より尋常小学校へ……………1069

私立培達学舎 迪康小学校 予則小学校 吉内小学校 滑川小学校 第三中学区一三番小学校 翠松小学校 河東小学校 臼杵小学校 松尾小学校

第二節 尋常小学校以後の各小学校……………1078

土谷小学校 滑川小学校 東谷小学校 西谷小学校 川上小学校 松瀬川小学校

第三節 新制中学校の発足……………1174

三内中学校の設立まで 三内中学校の発足 川上中学校創立 松瀬川中学校の設立 滑川中学校創立 川内中学校

第三章 その他……………1201

第一節 幼稚園教育……………1201

東谷幼稚園 西谷幼稚園 川上幼稚園

第二節 各種学校……………1218

川内高等家政学校 私立 川上ドレスマーカー女学院 愛媛十全医療学院

第四章 社会教育……………1221

第一節 戦前の社会教育……………1221

若連中 青年会 夜学会 実業補習学校 青年訓練所 青年学校 東温青年学校・東温家政  
女学校 青年団 処女会 女子青年団 婦人会

第二節 戦後の社会教育……………1239

戦後の社会教育の歩み 婦人会 青年団 老人クラブ 高齢者教育 公民館 PTA 社会  
体育 川内町勤労者体育センター 体育協会 体育指導委員 文化協会 愛媛夏季大学

## 第六編 民 俗

第一章 村落社会の構造……………1273

第一節 民俗からみた川内……………1273

村落社会の構造

第二節 同族関係……………1302

血族

第二章 衣食住の変遷……………1305

第一節 衣生活……………1305

第二節 食生活……………1312

第三節 住生活……………1320

第三章 労働慣習……………1329

第一節 共同生活……………1329

第二節 奉公……………1330

第四章 年中行事……………1332

第一節 正月……………1332

第二節 春から夏……………1344

第三節 秋から冬……………1354

第五章 人の一生……………1364

第一節 産育と成人……………1364

第二節 婚姻……………1368

第三節 年祝い・厄年・厄払い……………1372

第四節 葬送のしくみ……………1375

第六章 民間信仰・俗信……………1383

第一節 トウヤ・トウモト……………1383

第二節 神社信仰……………1383

第三節 仏教信仰……………1391

第四節 その他の信仰……………1397

第七章 民話と伝説……………1401

第八章 子供の生活……………1428

第一節 子供の遊び……………1428

第二節 わらべ歌……………1442

第九章 民謡……………1452

第一〇章 方言・俚諺……………1460

第一節 方言……………1460

第二節 俚諺……………1487

第七編 宗教・文化・文化財

第一章 宗教……………1501

第二章 文化……………1533

第三章 文化財……………1536

第八編 人物……………1545

年表……………1573

参考・引用文献……………1601

編集を終えて

川内町地図

町誌編集委員会委員・町誌編集委員会専門委員